

牧小だより



心ゆたかに たくましく 生きぬく子



牧小学校の歴史と文化を受け継ぎ守る

校長 古川 正浩

牧小学校は、153年目を迎える歴史ある学校として、今年度は5名の児童を迎え、63名で活動していきます。

児童の皆さん、保護者の皆様、入学・進級おめでとうございます。

本校は、明治5年の「学制」発布を受け、地域の方々の熱い思いから「東逋道義校」が作られ、今につながっています。「学制」の発布の目的として、「(略)…人々すべてその身を修め、智を開き、才芸を長ずることが緊要…(略)。」とありました。意味としては、社会を構築していくためには、身を修めること(行いや人格を正しくする。心や行動が乱れないように整えること。)、智を開くこと(知識を開くこと。知識が開けていること。)、才芸を長ずること(才知と技芸。知恵の働きと技術。を伸ばし高めること。)と示され、このことを身に付ける場所として学校が位置付けられました。

この思いは、「普遍的な価値」であると考え、時代を超えて大切にしていかなければならないことであると考えています。令和8年度の学校経営においても、「身を修めること」「智を開くこと」「才芸を長ずること」を育むことを大切にしていきます。

また、昨年度から学校経営の柱の一つとしてきた「ふるさと(縁)」を大切にしていきたいと考えています。家庭や地域・牧の子育て隊など様々な方のご協力によって児童を支えていただいています。この縁を大切にしていくことによって、「私は牧の子」と胸を張って話することができる児童を育てることにつながると考えています。PTA・牧の子育て隊をはじめとした地域の皆様のお力をお借りしながら、「ふるさと-牧-」を愛し、大切にする心を育めるよう努力してまいりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



自分の言葉で語れる児童の育成

昨年度から始めた「牧小アクティブスクール理念」として、「自分の言葉で語れる」児童の育成に今年度も力を入れて取り組んでいきます。

牧小学校は児童数が少ないという特徴があり、大人数の中では委縮してしまい、自分の思いを上手に伝えるのが苦手であると言われてきました。また、職員も多く、大人がいろいろなことに対して、手を多くかけることができ、児童が主体的に考えなくても物事が進んでいくことがありました。

このような実態を受けて、児童が自分自身の思いや考えをもち、実現させるためにどのようにすればよいかを考え、提案し、実施していける場面づくりをしていくことが必要であると考え取り組んでいます。昨年度には、児童会・委員会を中心とした「運動会」を行いました。職員が前に出ずに児童主体の運動会を実施することができました。

この実践をもとに冬休み明けには、児童会・委員会が、企画立案した「全校借り物競争」や「縄跳び大会」も提案・修正・運営をすることができるようになりました。前に立ってしゃべる人は、紙を見ずに、自分の言葉で胸を張って話をする姿は、たくましく自信に満ちていました。

また、教科授業でも自分の考えをもち、仲間に思いを伝えようとする意志をもてるよう、「対話」を多く取り入れた授業づくりを行っています。今年度もペア・小集団・全体などいろいろな場面で、ホワイトボードやタブレットの協同学習用アプリの活用に力を入れ、対話することの楽しさや対話することで考えを深めることができるよう取り組み、自分に自信が持てるよう工夫して取り組んでいます。

中学校に行っても社会に出ても、自分の言葉で語れるように職員一同、精一杯取り組んでまいりますので、なにとぞご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

